

破碎ごみの行方

破碎までの流れ

- 破碎ごみは月1回収集をしています。

ごみは、多治見市指定ごみ袋に入れて口が縛れる長さのものであれば指定ごみ袋に入れて、指定ごみ袋に入らないもので、重さが50kg、長さが1m以内のものは粗大ごみシールを貼って、指定の曜日に、ごみステーションに出していただければ回収します。



- 三の倉センターに入った収集車は計量機でごみの重量を記録します。

入口は自動ドアとなっており、外に匂いが漏れないよう、エアカーテンなどを設置して工夫しています。



- 破碎ごみは最初に破碎ごみピットで集積します。

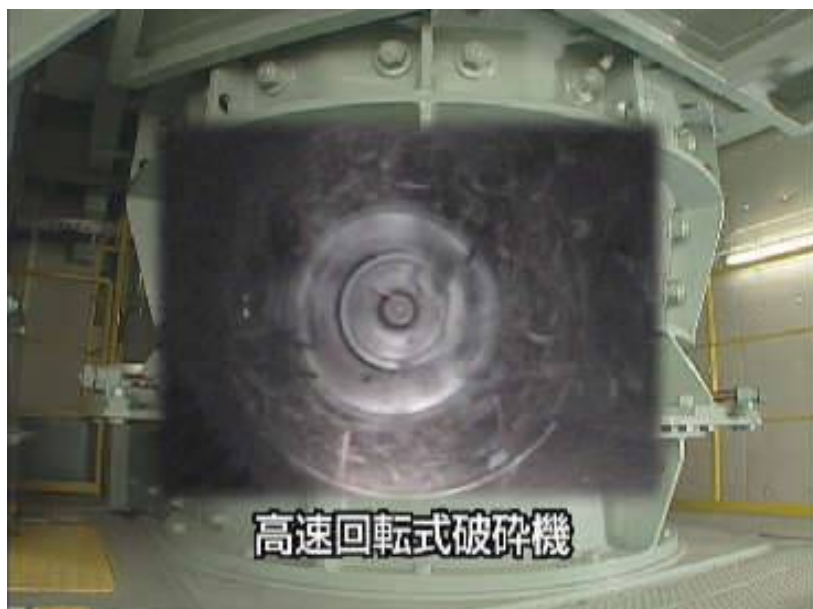
ある程度のごみがたまったら、破碎工程のラインを稼働します。



- まず最初に 2 軸の低速回転破碎機にかけて粗破碎を行います。
イメージとしては、歯車で噛み砕く感じです。



- 続いて粗破碎したものを 1 軸高速回転式破碎機に送って更に細かく破碎します。
イメージとしては、高速で回転する円筒にハンマーが取り付けられており、対象物を叩き壊す感じです。



- 破碎ごみなどを扱う機械は、リサイクルプラザの中央制御室で一括管理を行います。



資源化(破碎スチール)

- 細かく砕いた破碎ごみから磁選機で磁力を使って鉄だけを取り出します。



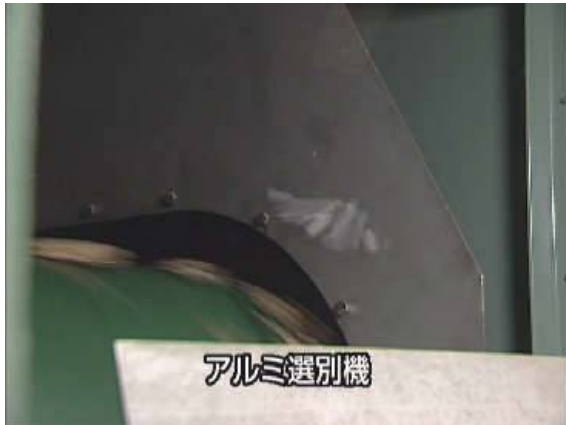
- 磁選機で分けられた鉄は、大畑センターに集積された後、入札により金属仲買人を通して金属市場に出荷されます。

その後、鉄筋など鉄製品に再生されます。



資源化(破碎アルミ)

- 磁選機を通り抜けた破碎物は、今度はアルミ選別機にかけられます。
アルミ選別機では、アルミだけを跳ね飛ばして選別します。



- アルミ選別機で分けられたアルミは、大畑センターに集積された後、入札により金属仲買人を通して金属市場に出荷されます。
その後、アルミ製品に再生されます。



残ったものについて

- 破碎ごみから、鉄、アルミを取り出した残りは、燃やすごみの工程に送られます。
- 燃やすごみの工程で、さらにスラグやメタルといった資源を取り出します。